

Wellbeing-Based Policy Design (WBPD)

OASIS研修 成果発表

K a k o g a w a L i f e

加古川暮らし

「ずっとここで」 そう思えるまち 加古川

所属組織名：加古川市 2班（令和7年度）

氏 名：企画広報課

総務課

収税課

環境政策課

医療助成年金課

藤原 知子

多田 啓治

安田 啓一郎

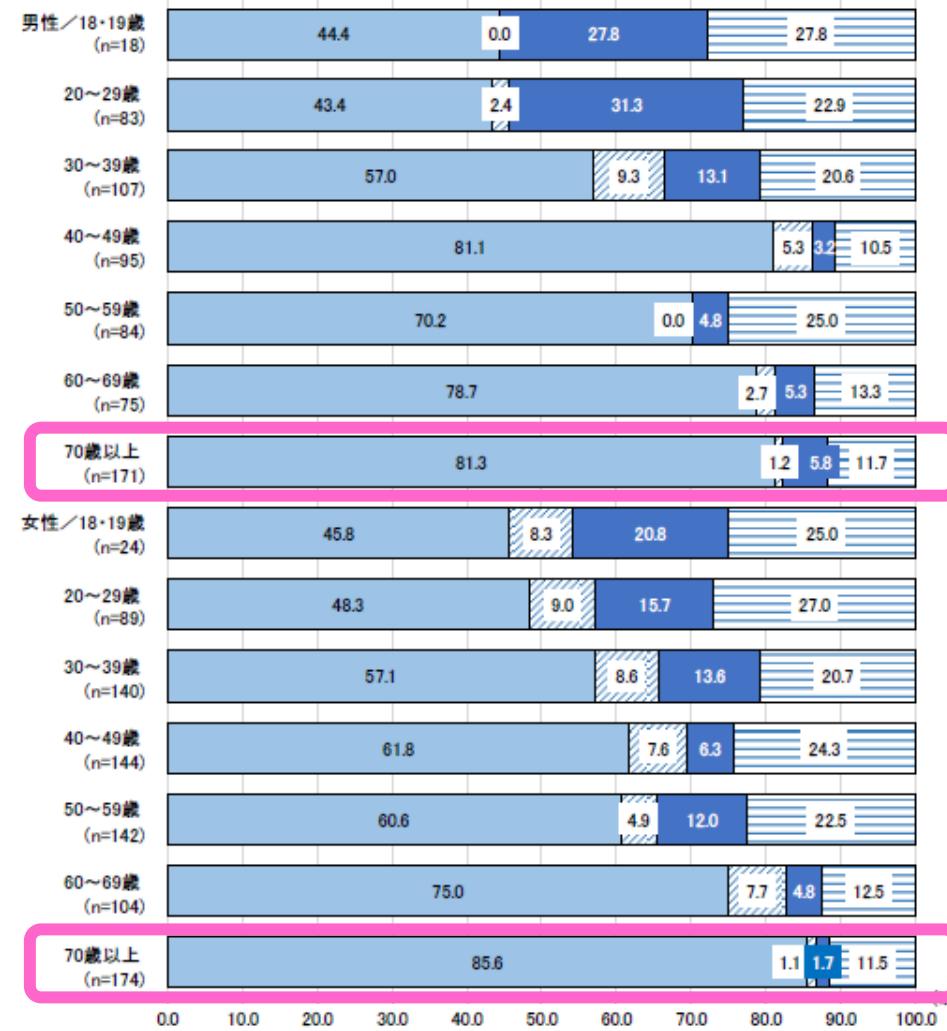
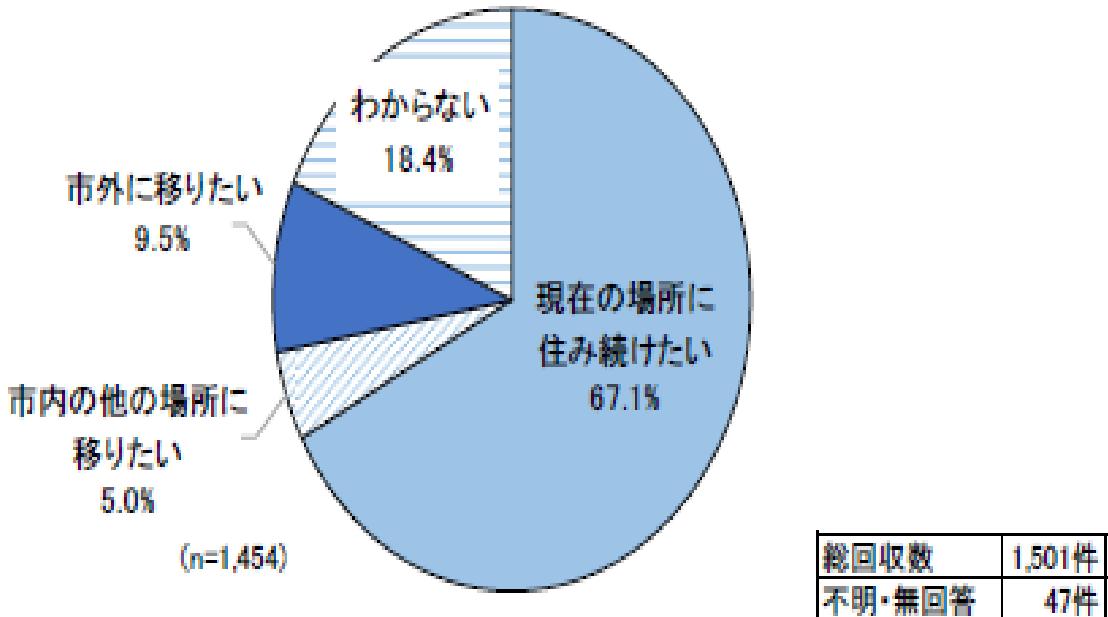
岩坂 真吾

西尾 あこ



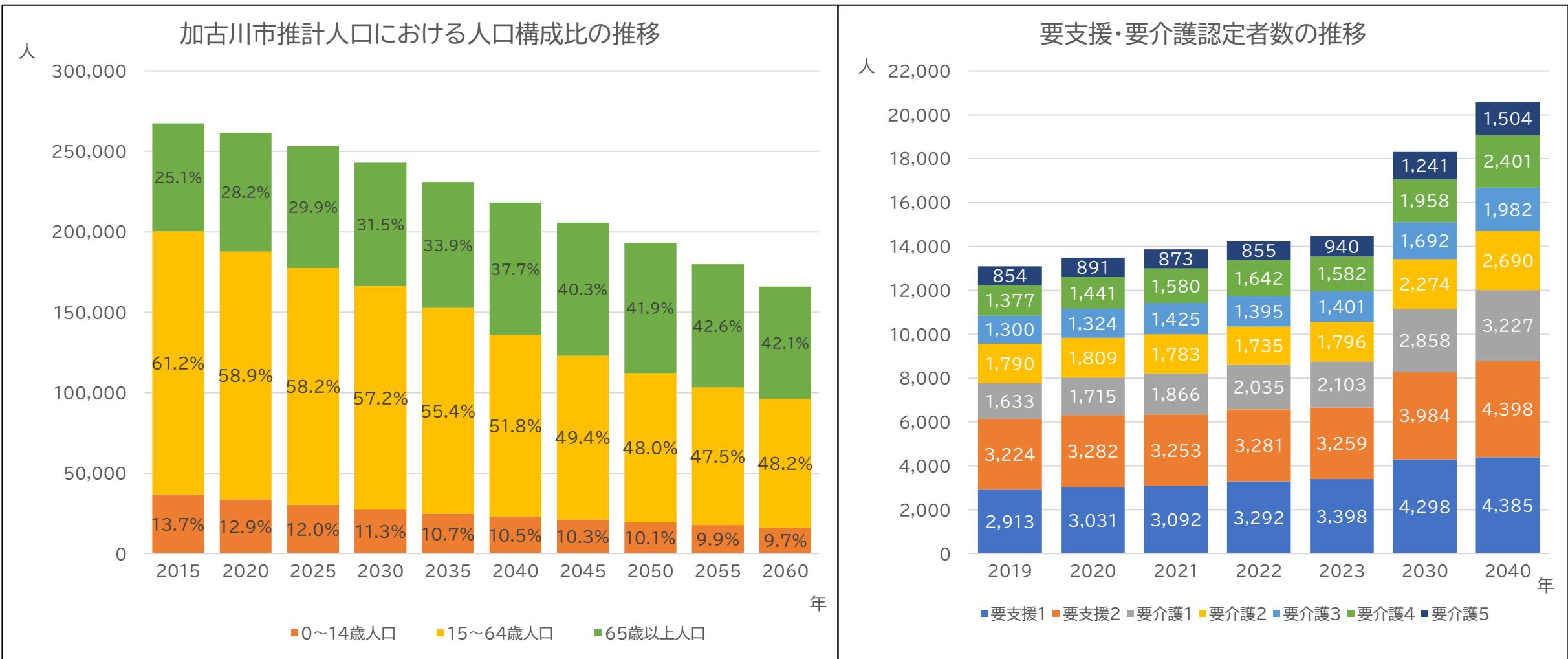
加古川市の現状

定住意向



【出典】加古川市「令和6年度市民意識調査報告書」

加古川市の現状



【出典】加古川市「第2期加古川市人口ビジョン」市推計人口を基に作成

【出典】加古川市「第10期加古川市高齢者福祉計画・第9期加古川市介護保険事業計画」

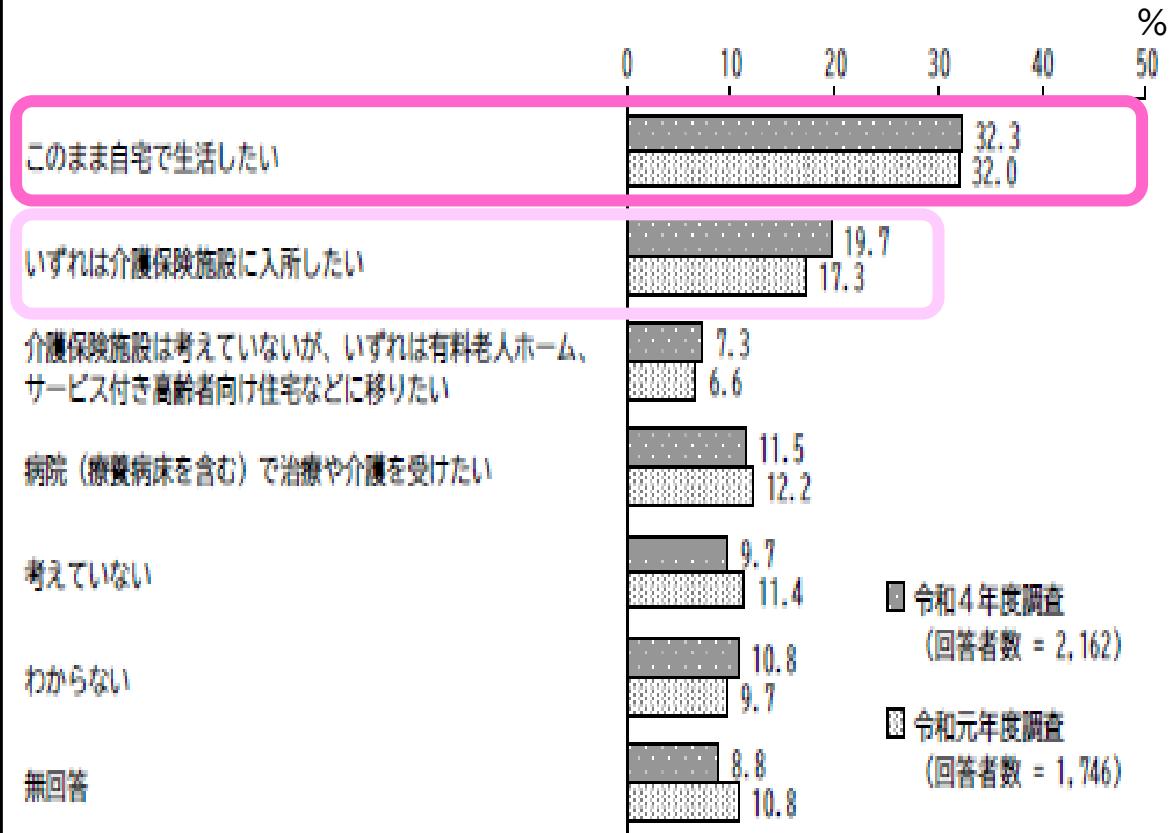
要支援・要介護認定者数の推移を基に作成

※2019～2023年は各年4月1日現在、2030・2040年は市推計

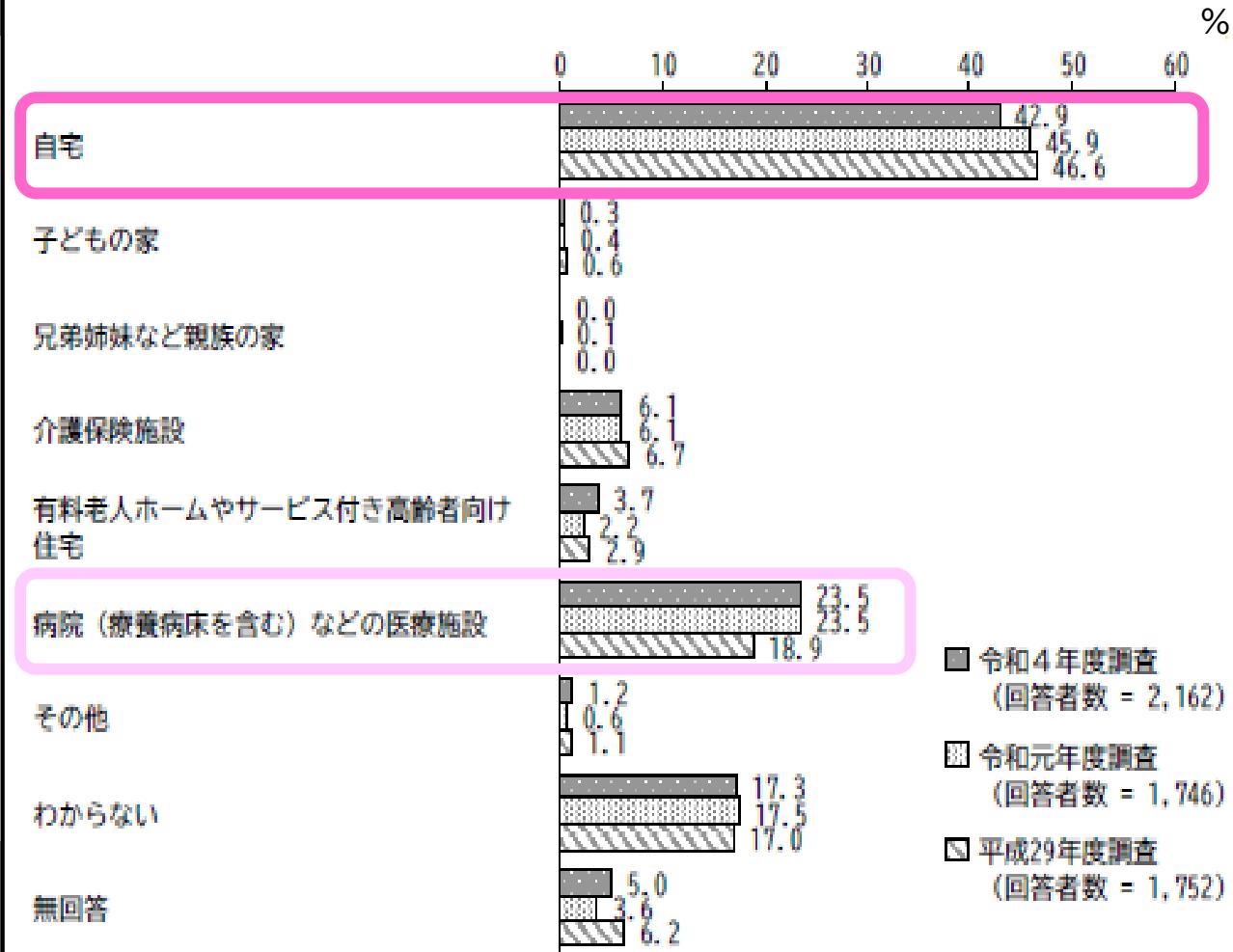
※第2号被保険者（40～64歳）を含む

加古川市の高齢者の特徴

介護を受けたい場所(一般高齢者)



最期を迎える場所(一般高齢者、要介護等認定者)



【出典】加古川市「第10期加古川市高齢者福祉計画・第9期加古川市介護保険事業計画」アンケート調査の結果（一般高齢者アンケート、要介護等認定者アンケート）

加古川市民のウェルビーイング因子のSWOT分析（8領域の選択）

都市環境の設問
自然環境の設問
地域の人間関係の設問
自分らしい生き方の設問

		T (脅威)	O (機会)
S (強み)	<p>(主観50以上、客観50未満を記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化・芸術 ・事故・犯罪 ・初等・中等教育 ・公共空間 	<p>(主観と客観の偏差値50以上を記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康状態 <input checked="" type="checkbox"/> ・地域とのつながり <input checked="" type="checkbox"/> ・自己効力感 ・デジタル生活 <input checked="" type="checkbox"/> ・医療・福祉 <input checked="" type="checkbox"/> 	
W (弱み)	<p>(主観と客観の偏差値50未満を記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・交通 ・地域行政 ・教育機会の豊かさ <input checked="" type="checkbox"/> ・遊び・娯楽 ・都市景観 ・多様性と寛容性 	<p>(主観50未満、客観50以上を記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害 ・雇用・所得 <input checked="" type="checkbox"/> ・環境共生 ・自然の恵み ・事業創造 <input checked="" type="checkbox"/> 	

市民のウェルビーイング向上のために注力すべき8つの政策領域の選択理由

政策領域① 医療・福祉

(選択理由) 70歳以上の主観偏差値は50を超えており、今後、高齢化の進行により、介護・福祉サービスを必要とする人数が供給以上に増え、このままでは相関がある生活満足度（相関係数が0.41）も低下することが予測される。すべての世代が安心して暮らせるよう、必要な人に適切な支援が行き届く医療・福祉の充実が必要と考えるため。

政策領域② 住宅環境

(選択理由) 幸福度、生活満足度との相関係数がいずれも0.4以上と高い一方で、高齢になるにつれ主観偏差値が低下している。長く住み続けたいまちとして選ばれるよう、良好な住宅環境を維持することが重要と考えるため。

政策領域③ デジタル生活

(選択理由) 客観偏差値は高いものの、「仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい」の主観偏差値について、70歳以上が低い。市民の高齢化や働き手の減少が進む中、誰もが便利で安心、つながりを感じられる社会の実現には、デジタルの活用が不可欠と考えるため。

政策領域④ 地域とのつながり

(選択理由) 住民同士のつながりは安心感や助け合い、孤立防止に寄与しており、生活満足度や幸福度との相関係数も比較的高い。今後ますます地域とのつながりが希薄化することが予想される中、対応が必要と考えるため。

政策領域⑤ 健康状態

(選択理由) 主観偏差値が最も高く、また、幸福度との相関係数も高いことから本市の強みである。引き続き維持・向上を図る取組が必要と考えるため。

政策領域⑥ 教育機会の豊かさ

(選択理由) 主観・客観偏差値ともに50を下回っているが、他の因子（⑦雇用・所得、⑧事業創造）とは0.5以上の相関性がある。高齢者に教育機会を提供することは、知識や技能の習得を通じて生活の質を向上させるだけでなく、地域活動への意欲を高め、生きがいづくりにもつながると考えるため。

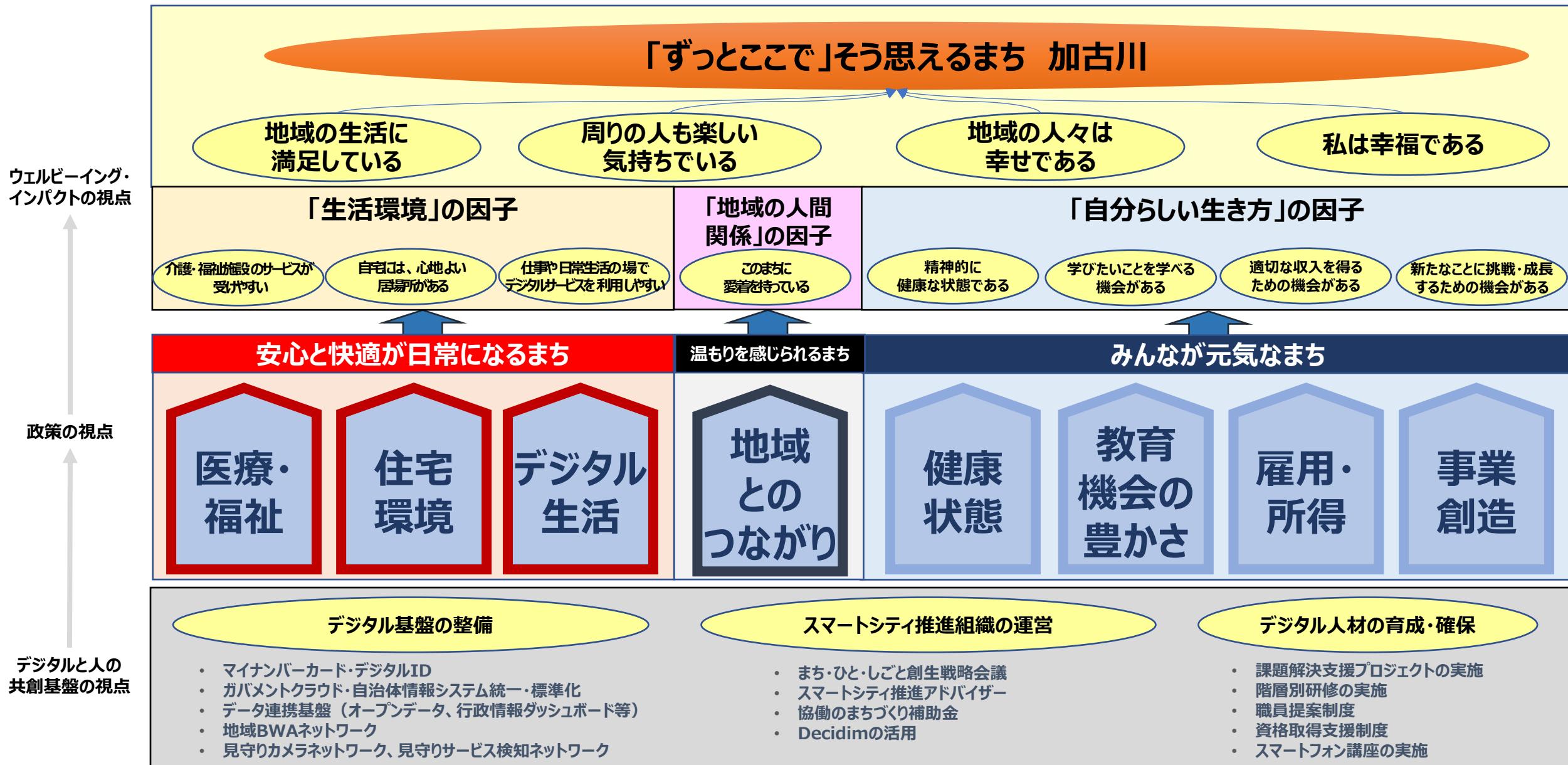
政策領域⑦ 雇用・所得

(選択理由) 主観・客観偏差値ともに50を下回っている。特に主観偏差値は、20歳以上は50を下回り、高齢になるにつれて下がっている中、70歳以上は37.1とかなり低い。生活には安定した所得が欠かせず、高齢化や人手不足が進む中で、高齢者は貴重な担い手としての役割が期待されるため。

政策領域⑧ 事業創造

(選択理由) 主観・客観偏差値ともに50を下回っている。特に70歳以上の主観偏差値は、他の因子と比較しても36.5と最も低く、客観偏差値46.4との差も大きい。地域社会における担い手としての役割や、個々のやりがいや生きがいにつながるという観点からも、誰もが挑戦や成長の機会を持つことが重要と考えるため。

市が実践すべきウェルビーイング政策の全体を整理した「統合マップ」



市が実践すべきウェルビーイング政策の全体構造の説明

「ずっとここで」そう思えるまち 加古川



何歳になっても心地よく安心して暮らせ、「ここで暮らしてよかったです」
「これからもずっとここで生きていきたい」と思えるまち

安心と快適が
日常になるまち

温もりを感じられるまち

みんなが元気なまち

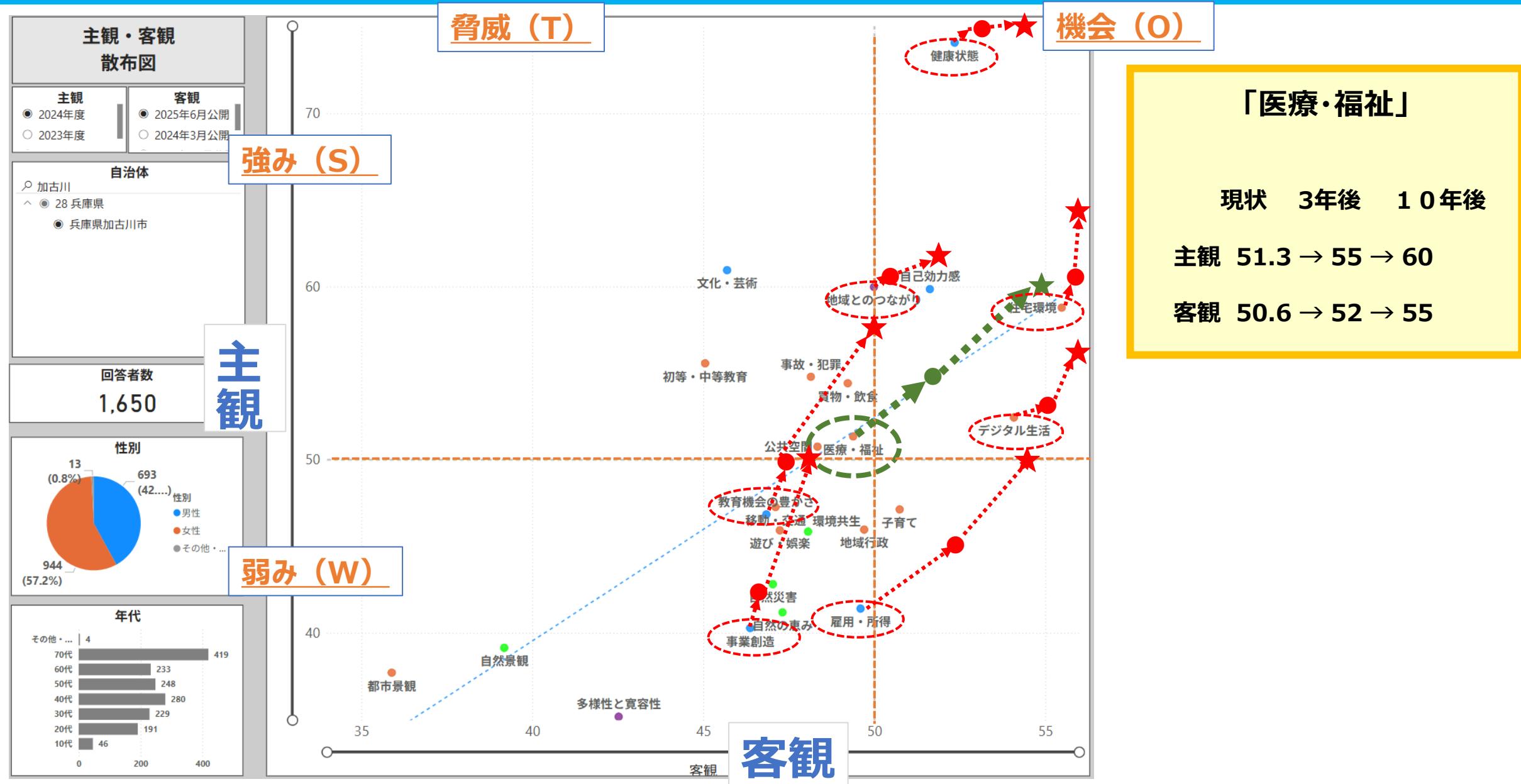
必要なときに必要な支援を受けられる、安心と快適が当たり前にある日常を実感できるまち

人とのつながりを大切にし、地域への愛着が自然と育まれるまち

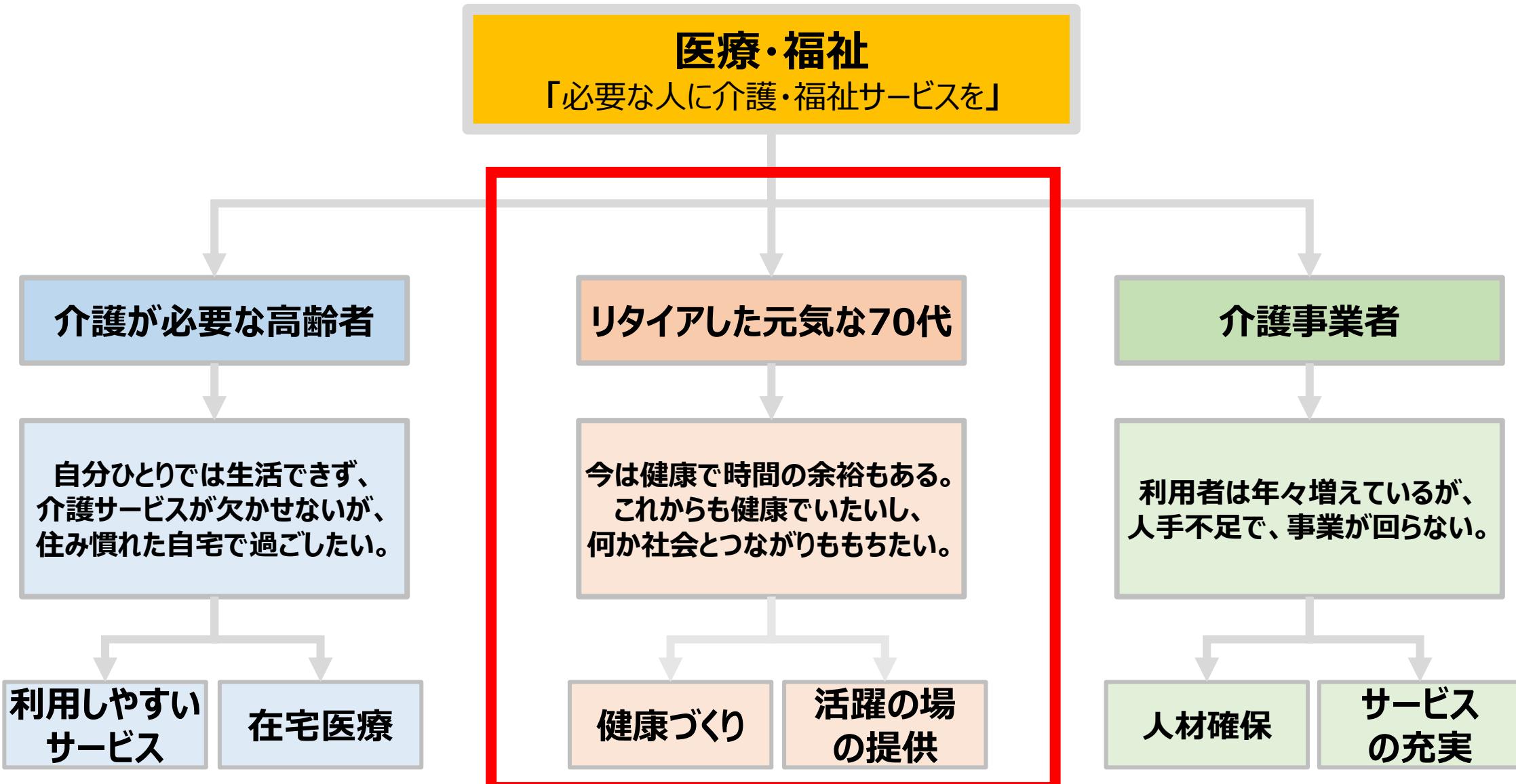
だれもが身体的にも精神的にも健康で、いきいきと暮らせる元気なまち



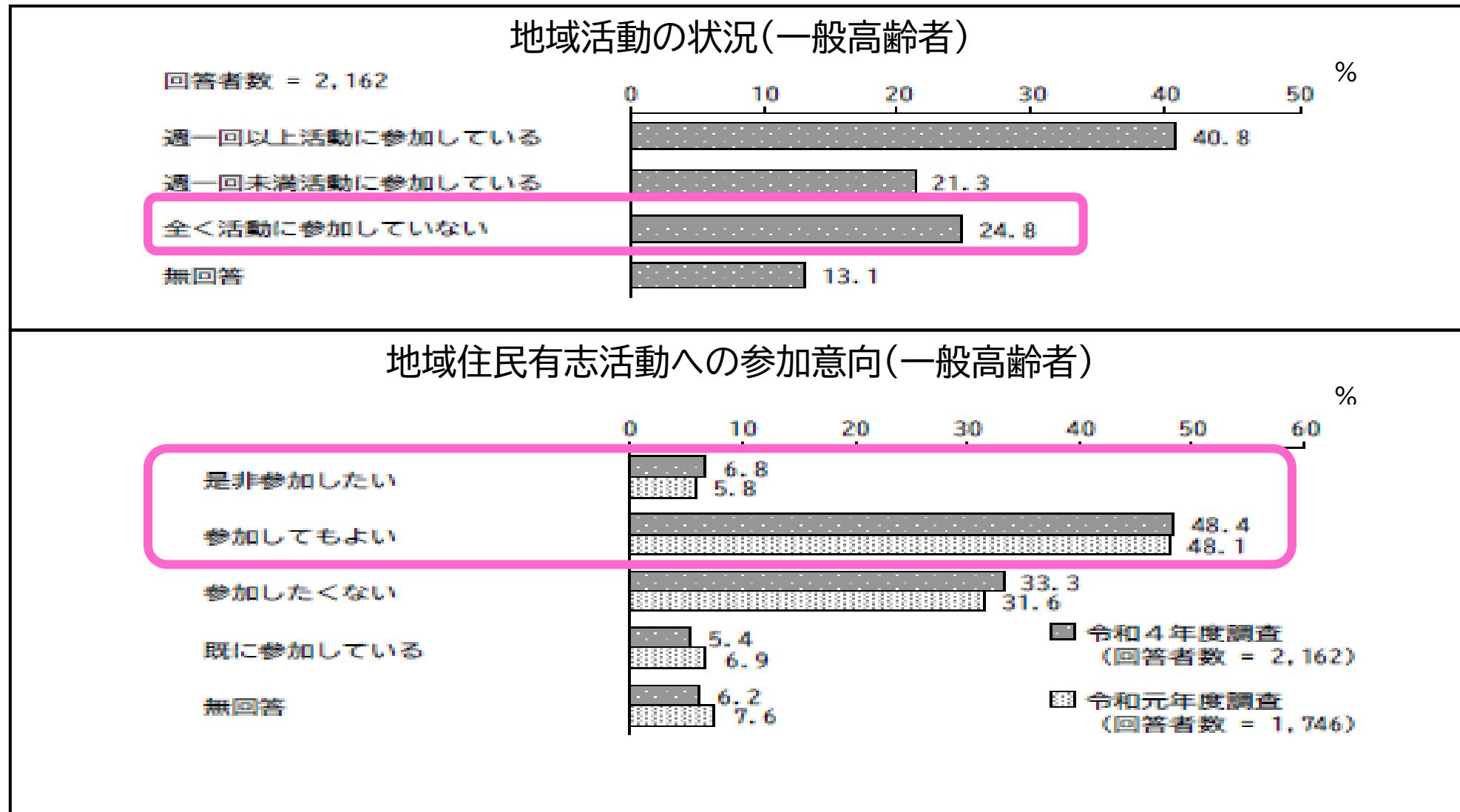
加古川市 2024年度個別調査 主観・客観散布図 (SWOT)



インパクトを最大化政策に関するペルソナ・ロジックツリーを選択する



加古川市の高齢者の特徴



【出典】加古川市「第10期加古川市高齢者福祉計画・第9期加古川市介護保険事業計画」アンケート調査の結果（一般高齢者アンケート）

【医療・福祉】必要な人に介護・福祉サービスを

【ペルソナ】 リタイアした元気な70代

現状

- 今は健康で時間の余裕もある。
- これからも健康でいたいし、何か社会とつながりももちたい。

将来像

- 10年後も心身ともに健康で、自分のやりたい活動を継続的に無理なくできる。
- 社会に活躍の場があり、生きがい・やりがいを感じている70代が増えている。
- 本当に必要な人が介護・福祉サービスを受けられる。

インプット

元気な70代応援事業
(デジタル改革推進課
／地域福祉課)
300万円／年

アクティビティ

・70代応援アプリの開発
(70代以上を対象とした
各種制度・活動のプッシュ
型通知)

アウトプット

・アプリ登録者数
目標：30,000人
・各種情報提供数

短期アウトカム

新たな活動を始めた
人の割合
目標：15%

長期アウトカム

継続的に活動をして
いる人の割合
目標：80%

ペルソナの 重要因子

健康づくり
(身体的／精神的に
健康な状態であると
回答した主観偏差値)
目標：10° イント増
◆地域幸福度調査◆
《2024年度
42.3 / 67.5》

総合インパクト

- リタイアした元気な70代の
幸福度の向上
(6.9 ⇒ 7.2)
- リタイアした元気な70代の
生活満足度の向上
(6.3 ⇒ 6.7)
- 医療・福祉政策のインパクト
主観 51.3 ⇒ 55 ⇒ 60
客観 50.6 ⇒ 52 ⇒ 55

ウェルビーイングシニア
カレッジ運営事業
(社会教育課/高齢者
支援課/農林水産課)
5,000万円／年

・ウェルビーイングシニアカレッジ
の開校
①健康増進を軸として、農業
や家政等に関する授業
(大学・高校と連携)
②廃校を活用
③JR主要駅からシャトルバス
運行
④将来的に健康増進施設、
温浴施設、ほ場(有機農
作物)を完備

・学生数
目標：400人／年
・授業回数

学生のうち
健康増進や自己成長
を実感できた人の割合
目標：10° イント増

要介護・要支援
認定割合
(65歳以上)
目標：21%
《2024年度末20.8%》

**活躍の場の
提供**
(町内の人々が困って
いたら手助けをすると
回答した主観偏差値)
目標：維持
◆地域幸福度調査◆
《2024年度82.2》

ウェルビーイングシニア
アグリスタート補助事業
(農林水産課)
400万円／年

・ウェルビーイングシニアカレッジ
卒業生を受け入れた農業
法人の支援
・有機農作物等の生産
・収穫した農作物の加工・
販売

・従業者数
目標：40人／年
・有機農作物等の
生産・加工販売数

従業者のうち
働きがい・生きがいを
感じている人の割合
目標：90%

労働率
(65歳以上)
目標：35%
◆国勢調査◆
《2020年22.86%》

(適切な収入を得る
ための機会があると
回答した主観偏差値)
目標：10° イント増
◆地域幸福度調査◆
《2024年度34.5》

ここまで分析作業を通じて判明した、市独自の質問項目や客観指標として追加すべきもの（セカンドレイヤーの質問項目）

【市独自の質問項目として追加すべきもの】

◆市民対象（70代）のアンケート調査◆

- ・「新たな活動を始めた」
- ・「継続的に活動をしている」

◆ウェルビーイングシニアカレッジの学生・卒業生対象のアンケート調査◆

- ・「健康増進や自己成長を実感できた」
- ・「学びを地域に還元している」

◆ウェルビーイングシニアカレッジの卒業生を受け入れた農業法人の従業者対象のアンケート調査◆

- ・「働きがい・生きがいを感じている」

【市独自の客観指標として追加すべきもの】

- ・70代応援アプリの登録者数
- ・70代応援アプリの各種情報提供数
- ・ウェルビーイングシニアカレッジの学生数
- ・ウェルビーイングシニアカレッジの授業回数
- ・ウェルビーイングシニアカレッジの卒業生を受け入れた農業法人の従業者数
- ・ウェルビーイングシニアカレッジの卒業生を受け入れた農業法人での有機農作物等の生産・加工販売数

市の未来像に関するイメージ画像

